

# 所 信 表 明

平成 23 年 8 月 1 日

第 3 回市議会臨時会

美唄市長 高 橋 幹 夫

# 目 次

就任挨拶	1
基本姿勢	1
まちづくりの方向	3
新たな取り組み	8
むすび	9

平成 23 年第 3 回市議会臨時会に当たり、市長就任のご挨拶と市政執行についての所信を述べさせていただきます。

( 就任挨拶 )

私は、この度の市長選挙におきまして、多くの市民の皆さんのご支援をいただき、市政を担当させていただくことになりました。

ご支援をいただきました皆様方に、心から感謝を申し上げますとともに、改めて、責任の重さに、身の引き締まる思いをしているところでもあります。

( 基本姿勢 )

はじめに、私の市政に対します基本姿勢について申し上げます。

ご承知のとおり、選挙の結果は、これまでにない僅差でありました。この結果には、市民の皆さん方の色々な思いが込められており、大変、重たいものと受け止めております。

このため、これからの 4 年間は、この重さを忘れることなく、常に緊張感をもって、「ふるさと美唄」の再生のために、企業経営で培った、行動力と決断力をもって、全力で取り組んでいく決意であります。

本市は現在、人口減少や少子高齢化、さらには、地域医療のあり方や地域経済の振興など、多くの課題がありますが、私は、これまでのまちづくりに携わってきた経験を生かし、何とか「ふるさと美唄」を再生し、未来の子どもたちが、自慢できる、まちにしたいと思っております。

そのためには、課題解決に向けた、いろいろな可能性を求めて、一つひとつ形の見えるまちづくりを進めることによって、美唄は、変わっていくものと信じております。

これらの直面している多くの課題は、これまでも社会経済状況の変化に応じて、議会や多くの市民の方々と議論を重ねてきたところでもあります。

今後におきましては、これまでの議論を踏まえ、前例や慣習にとられることなく、市民の皆さんと情報を共有しながら、課題解決に向けた具体的な方向性を示していきたいと考えております。

このため、私は、市民の皆さんにとって、また、地域にとって何が課題で、何が必要なのか、市民の皆さんの声をしっかり受け止めることから始めたいと考えております。

また、本年3月に発生した東日本大震災により、来年度以降の財政運営にも、少なからず影響を及ぼすのではないかと危惧しておりますので、今後におきましても、国や道としっかり連携を図っていかねばならないと考えております。

近隣の自治体と共通する課題につきましては、広域的な連携も視野に入れながら、課題解決に向け、自治体間の連携も図って参ります。

私は、以上のような基本姿勢をもとに、本市の発展のため、多くの市民の皆さんの知恵と力をいただきながら、全力で取り組んで参ります。

(まちづくりの方向)

次に、私の考えている、まちづくりの方向について、申し上げます。

私は、本市の第6期総合計画である「びばい未来交響プラン」に基づき、まちづくりを進めていくことを基本に考えておりますが、先ほども申し上げましたように、この度の大震災により、地方財政への影響が懸念されますので、前期基本計画における事業実施におきましては、国や道の動向を見極めながら、その時々状況に応じた対応をしていかなければならないと考えております。

その中でも特に、2つの目標と6つ重点を掲げ、取り組んで参ります。

目標の1つは、元気な人づくりであります。

まちの輝きは、人の輝きだと思っております。

市民の皆さん、一人ひとりが、元気に輝く、まちづくりを進めて参ります。

そのための重点の1つ目は、人にやさしい健康で元気なまちづくりであります。

市民の皆さんが、生活する上で、健康で安心して暮らせるまちづくりは、大変、重要なことであると考えております。

本市においては、少子高齢化が進む中、子育て支援や高齢者福祉に積極的に取り組んできており、今後におきましても継承していきたいと考えております。

特に子育て支援につきましては、市内の西地区におきまして、子育て支援センター「はみんぐ」をはじめ、道営住宅「であえーる中央公園団地」においても、取り組みを進めることになっておりますが、全道子育て支援モデル地区として、市内東地区にも、同様の施設が必要ではないかと考えており、その設置に向けて、しっかりと、子育て支援体制の充実を図って参りたいと考えております。

また、誰もが健康で生きがいをもって、暮らしていけるよう、文化やスポーツ、健康づくりなどに積極的に取り組むことができる環境づくりを進めて参ります。

さらに、高齢者や障がい者の方をはじめ、市民の皆さんが抱えている様々な悩みや不安に対して、スピーディーな対応ができるよう、総合的な相談窓口の設置に向け検討し、市民サービスの充実と福祉の向上に努めて参ります。

重点の2つ目は、市民との協働による人づくり・地域づくりであります。

健康で生きがいをもって暮らしていくことは、市民の皆さん誰もが願うことでもあります。

それには、文化やスポーツ、健康づくりなど、多岐にわたっておりますが、今後はさらに、市民の皆さんの学習の場として、道央圏の大学と連携した、人づくりの拠点となる「サテライトキャンパス」の開設に向けて取り組んで参ります。

また、循環型社会を迎え、環境に与える負荷を少なくし、豊かな自然環境を保全し、後世に引き継いでいくことも大切なことだと考えております。

このため、世界的に貴重な宮島沼や市内に存在する豊かな自然環境を保全していくことはもとより、地域資源を活用する循環型社会の構築を目指したごみ処理方法など、市民の皆さんと一緒に考え、取り組んで参りたいと考えております。

また、未来を担う子どもたちが、健やかに、のびのびと育つよう、家庭や学校、地域との連携を図りつつ、学力と体力の向上に努めて参ります。このように、子どもたちと地域の大人と一緒に取り組むことで、地域の元気づくりにもつなげて参ります。

重点の3つ目は、安全・安心の推進であります。

まちづくりを進めていく上で、何よりも優先しなければならないのは、市民の皆さんの安全の確保であります。

この度の大震災では、未曾有の被害をこうむり、多くの貴重な命が奪われました。

私は、市長就任以来、災害時の被害を最小限に食い止めるための対策を、これまで以上に講じなければならないとの思いが日に日に強くなってきております。

そのため、市役所の中に、防災などの危機管理を専門に行う部署を設け、市民の皆さんの自主的な活動と連携を図りながら、様々な災害や事故などに備えていきたいと考えております。

また、市民の皆さんが健康で安心して暮らしていくためには、市立美唄病院をはじめとする本市の地域医療をどうするのか、このことがもっとも大きな課題であります。

そこで、市立美唄病院の今後のあり方を含めた地域医療全体を、どのようにしていくかを検討するため、医師会の皆さんをはじめ、関係者の方々との協議の場を設け、市としての方向性を早急に検討して参りたいと考えております。

次に、目標の2つ目は、元気なまちづくりであります。

産業の振興と雇用の創出、さらに、交流の拡大による、元気なまちづくりを進めて参ります。

そのための重点の1つ目は、本市の基幹産業である農業の振興であります。

本市農業を発展させるための農地の基盤整備につきましては、良質な農産物の生産性の向上、さらには効率的な生産基盤の充実を図る上で、必要不可欠なものであります。

このため、引き続き、国営農地再編整備事業の確実な事業実施に向け、国に対して強く要請して参りますとともに、道営による基盤整備につきましても、地域の要望を踏まえ、道に対して要請活動を続けて参ります。

また、食糧備蓄基地構想の推進につきましては、これまでも、商工会議所をはじめとする関係団体等とともに、その必要性について、国に訴えてきたところでありますが、この度の大震災により、災害時における食糧備蓄の必要性は、広く認識されつつあります。

このため、食糧備蓄施設の立地に向けましては、内陸部で、冷涼な気候にあり、雪氷エネルギー活用技術の実績がある本市の優位性をアピールしながら、今後も引き続き、国に対して積極的に要請して参ります。

また、TPP や EPA に関しましては、農業経営の安定化や農業後継者の皆さん方が活力と魅力を持って農業に取り組んでもらうために、私は、国が農業を守る新たな施策を講じない限り、引き続き、反対の立場を堅持して参ります。

重点の2つ目は、農商工連携による地域経済の活性化であります。

これまでも、本市の安全・安心で良質な農産物を素材とした、米粉やハスカップなどを使った新製品も生まれ、本市の特産品として、市内外に好評を得ているところであります。

このため、今後はさらに、産業間や産学間の連携により、特産品の新規開発や販路拡大に努め、経済振興と雇用の創出につなげて参りたいと考えております。

また、農産物や特産品販売のネットワーク化を図り、豊かな自然や景観を生かした、新たな観光ルートの開発などにより、交流人口の増加を図るとともに、美唄ブランドの食にこだわった、まちづくりを推進して参りたいと考えております。

重点の3つ目は、国や道との連携強化であります。

本市は、現在、市民の皆さんのご理解とご協力をいただき、市立美唄病院の多額の累積赤字の解消を含めた財政健全化に取り組んでいるところであり、大変厳しい財政状況にあると認識しております。

しかしながら、一方で、厳しい状況にあっても、将来への希望が持てる、まちの活性化に取り組んでいくことも大切なことでもあります。

そのためには、本市が抱えている多くの課題を一日でも早く解決することが重要であります。課題の中には、本市だけでは、解決できない問題も数多くありますので、今後も引き続き、国や道との連携を図りながら、市民サービスの向上につながるよう、努めて参りたいと考えております。

( 新たな取り組み )

ただ今、申し上げました、まちづくりの方向を具体化するため、地域経営という観点から、情報収集と施策づくりのしくみとして、新たに、3つのことに取り組みたいと考えております。

その1つ目は、これまでの市の最終的な意思決定の場である庁議を「経営会議」と位置づけることであります。

この「経営会議」では、各部の業務の進捗状況のほか、市民や地域の皆さんからの要望や苦情などを集約し、市民生活や地域の現状を常に把握し、情報の共有をしながら、課題解決に向けたアイデアを出し合う仕組みにしていきたいと考えております。

その2つ目は、多様化する社会変化の中で、持続可能なまちづくりを柔軟かつ迅速に進めていくためには、国をはじめ道や関係機関・団体等からの情報収集は必要不可欠であると考えておりますので、まちづくりに関する情報を一括管理する部署の設置も検討したいと考えております。

その3つ目は、主として民間の動きを的確に把握し、まちづくりに反映させるため、企業や金融機関等の皆様に、ご参加をいただき、仮称「地域経済円卓会議」を設置したいと考えております。

これまで、北海道全体や札幌圏の経済状況につきましては、日銀札幌支店や北海道経済産業局のレポートなどで、ある程度の状況は把握できますが、美唄市内の経済や雇用の状況などは、なかなか把握することが難しいことから、「地域経済円卓会議」でいただいた情報やご意見などを参考にしながら、今後のまちづくりに活かしていきたいと考えております。

(むすび)

以上、市長就任のご挨拶と、今後の市政執行に関する所信の一端を申し上げますが、私のまちづくりの基本は、市民の皆さんとの信頼関係を築き、情報や問題意識を共有し、正面から向き合いながら、一緒に取り組んでいくことであり、このことがなによりも大切ではないかと考えております。

これからの道のりは、決して楽な道のりではありませんが、職員と一致団結して、「ふるさと美唄」の再生のために全力で頑張ってください。市議会議員の皆さん、市民の皆さんの、ご指導、ご協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。所信表明とさせていただきます。